

2015～2016年度 R.I.テーマ

世界へのプレゼントになろう

R.I.会長 K.R. "ラビ" ラビンドラン

事務所 飯田市通り町4-1293-1

☎23-3430 FAX23-3433

URL:<http://iidarotary.com/>

E-mail:[iidaroc@titan.ocn.ne.jp](mailto:iidaroc@titan.ocn.ne.jp)

例会日 毎週水曜日 PM12:30～13:30

例会場 シルクホテル ☎23-8383

会長 外松 秀康 幹事 木下 伸二



## 会報

2015.7～2016.6 No.2  
MONTHLY REPORT

9月号

# 60年の感謝から奉仕の広がりへ



## 秋の「八島ヶ原湿原」(霧ヶ峰高原)

皆様ご存知の霧ヶ峰高原、標高1,600～1,900mに位置し、年間平均気温5.8℃とちょうど北海道と同じような気温です。年間を通じて四季折々の表情を見せ、飯田からも近くに位置しお出かけになられる方も多いでしょう。

表紙写真は霧ヶ峰の三大湿原のひとつ「八島ヶ原湿原」の様子です。夏には色とりどりの花を見ることができますが、9月になると草木は枯れ茶色一色に染まり「草紅葉」と言われます。天気の良い日は写真のように青空と白い雲そして一面に広がる草紅葉と素晴らしいコントラストに心洗われます。また日の出直後や日没前の斜めの光に照らされた湿原や霧が流れる湿原など高原ならではの情景に感動することでしょう。

(撮影・文 加藤優治)



## 会員増強推進について

会員増強維持PJ委員長 武井清彦

本年度は会員増強維持プロジェクト委員長を担当させていただき事となりました。よろしくお願いいたします。

本年度の会長方針は純増2名と目標を設定されたので、目標実現に向けて、皆様に協力いただき頑張っており取り組んでいきたいと思っております。この委員会には会員を増強する事と、維持する事と言う2つの大事な課題があります。

まず会員増強には下伊那グループ中島ガバナー補佐が言われるように、新会員獲得の為、最低2人以上の会員で義理と、人情と押し（もしくは脅し）で協力に

推進しましょう。

維持については楽しい例会はもちろんです、皆様の皆様にとってロータリーとは何を意味するのか自問していただき、今日も会員であり続ける理由も是非お話ください。その理由は生涯続く友情が得られるから、ロータリーでの機会やつながりを通じて得られた人生における発展など皆様の皆様ご自身のロータリーストーリーこそ新たな入会やら退会防止に向けて人の心を動かす力となると思っております。会員増強は1年を通じて力を入れる重要課題です。皆様のご協力おねがいします。



## 納涼例会

親睦活動委員長 宮下茂樹

大勢の皆様ご出席をありがとうございました。新会員の木村さんも初めての奥様同伴で参加下さり有り難うございます。飯田ロータリークラブの雰囲気を感じて頂けたでしょうか。水無月会の皆様も11名ご出席ありがとうございました。RACの4名の皆様も和気藹々でした。

今回は喬木フラメンコ教室の松島先生をはじめ生徒さん5名の皆様にフラメンコをお願い致しました。エネルギーなフラメンコがあリズムとともに残暑

の夕べにとっても似合った感じでお陰様で盛り上がりました。松島先生の熱いウインクに呼応されて踊りに加わった上沼さんの腰つきに怪しいキレがありまして、皆様から先生を超えるくらいの喝采を頂きました。

榊山さん名司会ありがとうございました。

親睦委員会と致しましては5回の特別例会・親睦家族旅行の今年度第一弾でございましたが、これからも楽しい例会・行事企画して参りますので是非是非ご参加よろしくお願いいたします。



私のこの一冊

闇に香る嘘

著者 下村敦史

1981年生まれ若手作家。2006年から江戸川乱歩賞に毎年挑戦し続けた末、2014年「闇に香る嘘」で受賞。

何度も最終候補に残っては、はじかれてもチャレンジした粘りがすごいです。

●紹介する理由

この作家は、緻密な取材と細部までのこだわり、想像力も旺盛なところが特徴です。自分がもしそのような立場だったら、こんな恐れがあるのかと考えさせられて、読んでいてずっと物語に入り込んでしまいます。前ふりが多く、最後にはそれがすべてつながり、謎が解けたとたんすべて意味のあるものになる構成は見事です。

●あらすじ

主人公は全盲の69歳男性の視覚障害者。終戦と同時に満州から帰国したという設定です。主人公の孫娘が腎臓の病気で、主人公が腎臓を提供しようとしたが適合せず、中国残留孤児だった実兄に腎臓移植の相談をもちかけることから始まります。切実な話に全く耳を貸そうとしない兄に対

伊藤 桐人



し、「もしかしたら本当の兄ではないのでは？」という疑念を持ってしまいます。

主人公は不自由ながら、真相を突き止めようとすればするほど、不思議な場面に出くわします。関係者のなぜかつかれない態度、そして定期的に送られる点字の俳句。さらには関係者の証言に矛盾を発見。最も致命的なのは、年老いた母親の「いまさら兄ちゃんを調べちゃかん。本物が偽物かは、もうどうでもいいことだよ。」という言葉で「何かを知っていて隠しているのでは。」と疑念が確信に変わっていくのです。主人公は、娘との関係も上手くいっておらず自分ひとりという葛藤と孤独感、猜疑心にさいなまれ、一体結末はどうなっていくのか。

結末はあっと驚く盲点をつくもので、心が温かくなり愛情に満たされた感覚になります。すべては「こういうことだったのか。」という納得と読んだ後の満足感はお約束します。

時間はそんなにかかりませんので気分転換に良い一冊であります。

わたし しゅみ 私の趣味



I like...

7月より新規入会させて頂きました木村友彦です。

新入会の自己紹介として私の趣味の一つをお話しします。一芸に秀でて身を助ける程の物を持っている訳ではありませんが、釣りと硬式テニスは長年親しんで来ました。テニスは中高の軟式テニスから大学進学を機に硬式テニスに転向、飯田に帰ってからは有志でクラブを立ち上げ大会に参戦、古参のクラブが行っている相手のミスを待ち、ゆるいラリーを延々と続けるプレースタイルでは無く攻めるテニス、エースをねらうテニスを地方の底辺が行える様でないと世界に通用するプレーヤーは日本からは出て来ないと壮大すぎる夢を持ち、オンシーズンはもとより冬は吹雪で球が見えない時もコートの雪かきをしながら練習に打ち込んでいたのを思い出します。

現在ATPランキング4位の錦織圭選手の試合をTV観戦しながら相手より先に仕掛ける、攻められた球を攻めて返しポイントを奪うプレーにあの頃の俺たちの思いは正しかっ

ただと心の中のお鼻が少々ピノキオさんになっています。

10余年続けたクラブも諸事情で解散しましたが、この頃家族でテニスをする機会がありました。理想のプレースタイルを追っていた頃とはまた違った楽しい時間が過ごせました。

当時はボールに自分の気持ちを乗せて打っていくと相手が気持ちを乗せ返して打ってくる強い気持ちのやり取りだったのが何とも“ふんわり”とした暖かな気持ちのラリーなのです。少々休んでいたテニスですが又始めたいと思います。クラブ会員の家族同士コートサイドで美味しいコーヒーを飲みながらプレーを楽しむ、こんな事が将来出来たらいいなとロータリークラブに入会させて頂いて夢が一つ出来ました。趣味の話をお話に皆様と打ち解けていけたらと思います。お世話になります。宜しくお願いします。

釣りについては又機会があれば.....



猛暑が続いた夏もいよいよ終わりに近づいてまいりました。会員数も増え飯田RCも活気に満ちています。より以上にロータリーライフを楽しみたいものです。

(クラブ広報委員長 中村洋次朗)